

Green Brave

10th Anniversary

AUTOBACS SUPER GT 2022 SERIES

Round 2

#52 埼玉トヨペット GB GR Supra GT

FAV HOTEL FUJI GT 450km RACE

2022年5月3日(火)～4日(水) 富士スピードウェイ(静岡県小山町)

■ ■ ■ 事実上のトップを走行するもルール変更により 9 位にとどまる ■ ■ ■

第2戦のレース距離は450km。吉田選手が新型コロナウイルスに感染したため、若手の菅波選手が出場しました。土曜日(予選日)の天候は晴。9時から95分間の公式練習が行われ、川合選手と菅波選手が硬さの異なるタイヤを履いて走行。ベストタイムは菅波選手が終盤にマークした1分36秒277で、順位は6位。川合選手のタイムも拮抗しており、クルマの仕上がりは順調です。ノックアウト予選(Q1)は15時から行われ、GR Supra GTはB組に出場。菅波選手は予選開始の合図とともにコースイン。タイヤを入念に温めながら混雑状況を見極めます。菅波選手は5周目に午前中のタイムを上回る1分35秒763をマーク。3位に飛び込み、Q1突破を決めました。約30分後に行われたQ2。予選開始直前に雲が多くなり、タイヤが発熱しづらい状況でしたが、川合選手は菅波選手のタイムをコンマ2秒短縮する1分35秒542をマーク。予選7位を獲得し、明日の決勝に望みをつなげました。



決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット Green Brave GR Supra GT
(川合孝汰/菅波冬悟)

決勝：9位 (58周、3時間46分30秒924)
予選：7位 (Q2:1分35秒542)

日曜日(決勝日)の天候も晴れ。決勝中、2回の給油義務があるため、ペースが上がらない状況であれば早々にピットインを行い、給油義務を消化していくことに。タイヤ交換も予定されており、5人の店舗メカニックも気合十分です。菅波選手は順当なスタートを決め、ポジションをキープ。1周目のホームストレートを7位で通過します。しかし、直線の長い富士ではエンジンパワーに優れるFIA GT3勢に分があり、菅波選手は3周目に11位、4周目に12位へ後退。チームは菅波選手を5周目に呼び戻し、最初のピットインを実施します。作業は給油のみで、菅波選手は24位でコースに復帰。4号車のAMG GTを追う展開が続きます。28周目、菅波選手はGR Supra コーナーで4号車のAMG GTをパス。本来のペースを取り戻し、ハイペースで上位を追いかけます。

しかし、39周目にGT300のクルマがADVAN コーナーでクラッシュ。SC(セーフティカー)が導入され、隊列走行が続きます。菅波選手は45周目にピットイン。SC導入中のため、ドライバー交代やタイヤ交換はできませんが、最小限のロスで2回目の給油義務を消化。その直後、赤旗となり、約20分間の中断の後、50周目からレース再開となります。菅波選手は機を逃さず、51周目にピットイン。店舗メカニックが短い給油とタイヤ交換を行い、川合選手を送り出します。川合選手の順位は11位。給油義務をクリアしているチームのトップにつけており、優勝



への期待が高まります。川合選手はベストタイムを更新しながら力走。54周目に10位へ上がります。しかし、56周目のホームストレートでGT500のクラッシュが発生。すぐに赤旗が提示され、再び全車停止に。ガードレールの修復に1時間以上を要し、最大延長時間まで残り10分となったところでレース再開。しかし、SCの先導が解除されることはなく、58周を走り終えたところでチェッカー。2回の給油義務が免除になったため、順位が繰り上がることはなく、正式結果は9位。ベストを尽くして戦ったチームですが、非常に悔しい結果となりました。

DRIVERS VOICE

川合孝汰選手



(予選後) アウトラップは午前中とそれほど変わらなかったのですが、そのあと、アタックに行くタイミングでタイヤの硬さを感じました。思ったより一発のグリップというか、路面にひっかかる感じはなかったので、苦戦しました。でも、決勝の展開を考えて Q1、Q2 のタイヤを選んだので、予選 7 位は最低限のポジションに入れたと思っています。決勝のペースは悪くないと思うので、バトルをせずにどうやって前に出ていくかということをチームと一緒に考えています。

(決勝後) 事前に予想していたものとは異なるレース展開になりました。予定していなかった給油のみのピットインが入る形にはなったのですが、チーフエンジニアの近藤さんが作戦をいろいろ考えてくれ、菅波選手もどこで入った方がいいか状況を判断し、最終的にはいい方向にいきました。給油やタイヤ交換も最小限のロスで出られ、そのあとのペースもすごく良く、いい順位でいけると思っていたので、結果は残念です。

菅波冬悟選手



(予選後) 今日、初めてスープラで富士を走りました。Q1 を通せなかったらどうしようという気持ちもあったのですが、チームが富士を得意としていることはわかっていましたし、朝一の感触も悪くなかったので、コース上に出たら 100% の力を発揮するという気持ちでアタックに挑みました。公式練習の時に新品タイヤを履かせてもらったので、フィーリングは大体わかっていました。Q1 を難なく通るタイムが出て、自分自信、それなりにまとめられたと思います。

(決勝後) 4 号車を抜き、一刻も早く前に出たい状況でしたが、お互いの速いところが異なり、ドライバーの片岡選手もベテランです。ポイントポイントをおさえて走っていたので、抜くのに手間取ってしまいました。そこでロスしてしまったのは、自分の反省点だと思います。単独で 1 周走ったら速いタイムが出るのですが、前をふさがれ、後ろからも直線が速いクルマが来ているような時は、かなり厳しいと実感しました。

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1 位	TANAX GAINER GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	58
2 位	BUSOU raffinee GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	58
3 位	SUBARU BRZ R&D SPORT (スバル BRZ GT300)	58
4 位	GAINER TANAX GT-R (日産 GT-R NISMO GT3)	58
5 位	weibo Primez ランボルギーニ GT3 (ランボルギーニ ウラカン GT3)	58
6 位	K-tunes RC F GT3 (レクサス RC F GT3)	58
9 位	埼玉トヨペット GB GR Supra GT (トヨタ GR Supra GT)	58

天候：晴 路面：ドライ ※トップ 6 まで (出走 28 台)

チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1 位	56	KONDO RACING	28
2 位	10	GAINER	21
3 位	18	TEAM UPGARAGE	21
4 位	65	K2 R&D LEON RACING	17
5 位	34	BUSOU Drago CORSE	13.5
6 位	61	R&D SPORT	13.5
19 位	52	埼玉トヨペット Green Brave	5

トップ 6 まで



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



埼玉スリーボンド株式会社



株式会社西武ライオンズ



大和ラチエーター工業株式会社



株式会社 TAN-EI-SYA WHEEL SUPPLY



株式会社ドーム



株式会社日本ビューテック



Mechanix Wear LLC

第 3 戦は 5 月 28 日～29 日 鈴鹿サーキット (三重県)